2016年（平成28年）4月29日（金曜日）
中日新聞

春の叙勲

瑞宝単光章

越前打刃物一筋

加茂勝康さん（75）＝越前市御幸町

越前打刃物の製造に携わって六十年の節目での受章。生涯現役を誓う七十五歳に新たな励みになった。

キャベツなど葉物野菜を収穫する菜切り包丁が代名詞。長野県の農家の知人に求められたのをきっかけに一九七五（昭和五十）年ごろから製造に力を入れた。

鋭い切れ味は硬い芯を切る作業の負担を減らし、切れ味が落ちず、全国の産地から注文が舞い込む。

「先人たちが築いてきた越前打刃物の七百年の歴史を、つなげていかなければならないい」。若手の育成や海外進出に向けて意欲を見せる。（山内道朗）